

報道関係者各位

2011年7月19日(火)

デジタルハリウッド大学大学院・大阪キャンパス

×但馬豊岡観光協議会

兵庫県豊岡市の観光をPRする

短編映画『めでたいヤツららら』とCM映像を製作



日本初の株式会社による専門職大学院、デジタルハリウッド大学大学院・大阪キャンパス(大阪市北区西天満、本校:東京都千代田区 学長 杉山知之 以下本学)では、兵庫県豊岡市の観光PRのため、産官学が連携して、短編映画『めでたいヤツららら』ならびにCM映像を製作いたしました。

撮影は、5月22日から25日まで、豊岡市内各所で行い、地元での上映会を経て、7月23日(AM7:00～7:30)テレビ大阪にて放映後、国内外の映画祭に出品していく予定です。

◆製作の主旨

3月11日、未曾有の自然災害である東日本大震災が発生し、わが国全体が自粛ムードの雰囲気に包まれています。観光行動も自粛傾向にある中で、観光地としての城崎温泉を始めとした豊岡市から元気を届けよう、そして豊岡市に訪れていただいて心と身体を癒してもらおう、という想いをもって、単なる観光PR CMや情報番組ではなく、明るく楽しい短編映画として製作いたしました。

監督には、『酒井家のしあわせ』『オカンの嫁入り』などで、日常の暮らしと、そこに生きている人々をしっかりと捉え、人間の素晴らしさを描き続けている、呉美保(お・みほ)氏に依頼し、今回の作品では、別れていく思春期の少年の姿と思いを、豊岡市を舞台に描いています。

また、この映画の一風変わったタイトル『めでたいヤツららら』ですが、「どんなに辛いことがあっても前向きに生きている人のことを、称賛の意を込めて「めでたいヤツ」と呼び、豊岡の街に育まれ、たくましく生きている主人公2人のめでたいヤツが、街の人と共に「ららら」と楽しく歌い踊る。そういう元気溢れる様子を表現いたしました。

◆作品概要

作品名	『めでたいヤツららら』
時間	本編約 20 分 ※CM 映像は 15 秒
出演	聰太 花岡拓未(中 2) 孝司 新美夏里史(中 1)
監督・脚本	吳美保
プロデューサー	飯田美保、山田順一
製作プロダクション	株式会社スナイパーズ
企画	デジタルハリウッド大学大学院
企画プロデューサー	杉浦幹男(本学専任教授)、川田隆雄(本学客員教授)
製作	但馬豊岡観光協議会



◆あらすじ

聰太は1年前、両親の別居で、母と二人で横浜から、母の故郷であると豊岡市に引っ越して来た。聰太の祖父母(母の両親)は、城崎の温泉街で土産屋を営んでいる。母は居候をさせてもらうかわりに、土産屋を手伝っていた。

来てすぐの頃の聰太は、父と母の大人の事情にもまれて育った所為か、どこか背伸びしたような冷めた子だったが、温泉旅館の息子、幸司に引っ張り出され、城崎の人たちと触れ合ううちに、次第に年相応の無邪気を取り戻していった。

そんなある日、聰太の父と母がもう一度やり直すことになり、聰太は母と共に、横浜に帰ることになる。父と母と、再び家族一緒に暮らせることが素直に嬉しい反面、幸司を始め、豊岡の人たちとの別れを思うと、複雑な気持ちになってしまう聰太。

城崎を去る前日、聰太は幸司と一緒に、ロープウェイに乗る。

◆監督プロフィール

吳 美保(お・みほ)

1977 年、三重県生まれ。

大阪芸術大学芸術学部映像学科を卒業後、大林宣彦事務所「PSC」に入社。

短編作品『め』が、2002 年「Short Shorts Film Festival」に入選し、続く短編作品『ハルモニ』も 2003 年の「東京国際ファンタスティック映画祭／デジタルショート 600 秒」で最優秀賞を受賞する。

「PSC」退社後は、フリーランスのスクリプターとして活躍し、2005 年には初めてとなる長編脚本『酒井家のしあわせ』が、「サンダンス・NHK 国際映像作家賞」の日本部門を受賞し、同作を映画化。

最新作は『オカンの嫁入り』(主演: 宮崎あおい、大竹しのぶ)。同作品で新藤兼人賞 2010 金賞を受賞した。

【当プレスリリースに関するお問い合わせ】

デジタルハリウッド株式会社 広報室: 川村

mail: press@dhw.co.jp TEL: 03-5281-9248

デジタルハリウッド公式サイト : <http://www.dhw.co.jp/>

学長ブログ「スギヤマスタイル」: <http://www.facebook.com/SugiyamaStyle>

過去のプレスリリース: <http://www.dhw.co.jp/pr/release/>